

職員による自己評価

A環境面

- ・児童の人数に対して指導訓練室のスペースが手狭に感じる。職員配置は概ね適切
- ・バリアフリー化は不十分だが、現状そのままでも問題ない

B児童への支援内容

- ・立案、内容ともに幅広いプログラムを展開できている
- ・活動が固定化されないよう工夫ができており、児童の状況に合わせた支援が行えている

C関係機関との連携

- ・必要に応じてレベル感を図りながら連携が取れている
- ・地域連携や保護者会等については、コロナの状況も鑑みながら展開していくべき

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者とは送迎時や面談で信頼関係が構築されていると思うが、より良い関係性を目指していくべき

E非常対応

- ・非常時対応の保護者への周知が時々リクエストに上がるので、細やかな周知が必要

保護者による評価

A環境面

- ・コロナ感染に対するスペースの確保を検討してほしい
- ・もう少し広い居室だと望ましい
- ・バリアフリーでなくても良い

B児童への支援内容

- ・活動に工夫が感じられる
- ・子どもが楽しんで参加している

C事業所からの情報発信

- ・保護者会等については現在強く希望はしない
- ・保護者会の設置を求めたい

D非常対応

- ・非常時対応について、定期的な情報発信が欲しい
- ・コロナ禍の中で、色々な面で工夫や配慮をしながら運営していると思う

事業所内での分析

【共通点】

- ・指導訓練室のスペースに関して、整理整頓や工夫の必要がある
- ・プログラムに関して創造性や工夫がされている
- ・保護者会等については、早急な対応は必要ではないが、将来的には考慮する必要がある
- ・非常時対応についての定期的な周知方法を考える

【相違点】

- ・大きな相違点は今回見受けられなかった

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・活動プログラムに対しての幅の広さ、創意工夫、満足度
- ・保護者とのコミュニケーション量、信頼関係の構築

事業所の改善点

- ・事業所内の整理整頓、スペース確保の工夫
- ・非常災害時における避難方法や対応の周知の徹底

事業所の改善への取り組み

- ・非常災害時のことだけでなく、他のことも含めて情報発信の大切さを再考し、どのような形で発信していくことが一番良いかを従業員全体の意見も取り入れながら話し合っていき、実行する
- ・事業所内のスペースについては、定期的な整理整頓や工夫等を実践しながら、それが継続的に続けていけるような仕組みを作り、実行していく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者からの意見を取り入れつつ、事業所としてより良いサービスを提供するために様々な分野で話し合いや継続的な実践をしていくことが、より良い療育を提供していくことにつながるという気持ちを職員間でしっかりと共有し、意識をもって行動するためにも自己評価は欠かせないことだと感じました。

事業所名 スイミーフレンズ石川町

担当者 三分一 美紀

職員による自己評価

A環境面

- ・スペースは概ね問題ないが、出入り口の間口がもう少し広いと良い

B児童への支援内容

- ・ワンパターンにならないよう、様々なプログラムが立案されている
- ・児童の状況に応じたプログラムが展開されている
- ・終業時にも申し送りや話し合いができる時間が欲しい

C関係機関との連携

- ・学校や関係機関との連携は問題なく行えているので、継続していきたい

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者とのコミュニケーションはしっかりと取れている

E非常対応

- ・ヒヤリハットの事例集が従業員の見やすいところに置かれていると振り返りやすい

保護者による評価

A環境面

- ・バリアフリー化はなされていないが、スペースは問題があるとは思わない

B児童への支援内容

- ・プログラムに対して様々な工夫が感じられ、活動も固定化されないように配慮していると感じる

C事業所からの情報発信

- ・保護者会等についてはコロナ禍ということもあり、現状希望はしない

D非常対応

- ・非常時対応については概ね問題なし
- ・利用中の小さなけがについても報告をもらえると嬉しい

事業所内での分析

【共通点】

- ・プログラムに関して工夫をしながら立案、企画がされている
- ・安全面への配慮を意識的に深めていく

【相違点】

- ・大きい相違点は特に見受けられない

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・プログラムの立案、企画、準備等の体制
- ・学校や関係機関とのスムーズな連携
- ・保護者との信頼関係

事業所の改善点

- ・申し送り(特に終業時)の時間の確保や伝達および周知の方法
- ・保護者への連絡事項の共有
- ・ヒヤリハットの共有

事業所の改善への取り組み

- ・終業時の申し送りについて、終業時間も考慮しながら可能な限り申し送りが行えるよう送迎ルート
の調整やスムーズな伝達共有ができる仕組みを考え実践してみる
- ・保護者への連絡事項も上記と同様にスムーズな共有ができるような仕組みを作っていく
- ・ヒヤリハットについては職員のミーティング等で定期的に振り返る時間を設けるとともに、いつで
も確認ができるよう見やすい場所にファイルを置く

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・事業所内の情報共有をスムーズにすることで保護者への対応もよりスムーズになり、良い関係が継続して維
持できると考えました。より保護者満足度を高めるために従業員の満足度も同じように高めていきたいと思
います。

事業所名 スイミーフレンズ滝頭

担当者 遠藤 麻樹

職員による自己評価

A環境面

- ・完全にではないが、部屋のスペースやバリアフリーについて、一定基準を満たしていると思う

B児童への支援内容

- ・立案、内容に対して工夫する必要があるが、プログラム内容については幅広いものが提供できていると思う

C関係機関との連携

- ・連携が取れていないわけではないが、より一層のスムーズな連携を図っていく必要があると感じる
- ・保護者会等については、コロナの状況を鑑みて提案していく

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者とは一定の信頼関係は築けているが、より良い関係性が築けるようやり取りをしていく

E非常対応

- ・マニュアル類の周知共有を定期的にする必要がある
- ・身体拘束について、やむを得ない場合というのを周知する必要がある

保護者による評価

A環境面

- ・部屋の広さやバリアフリーに関して、概ね評価する

B児童への支援内容

- ・子どもが毎日楽しんで参加している
- ・専門性を持った職員は少なく感じるが、子ども達一人ひとりと向き合って接していると感じる

C事業所からの情報発信

- ・保護者会等について強く希望しない
- ・育児に関しての助言がもらえるなら欲しい

D非常対応

- ・定期的な避難訓練をしていることを発信してほしい

事業所内での分析

【共通点】

- ・スペースやバリアフリーに関しては、一定の基準を満たしている
- ・プログラムに関して保護者からの評価を得ている
- ・利用している児童が楽しみに参加している
- ・マニュアルの周知や避難訓練の情報発信等、非常時の対応全般的に意識して定期的な周知を行っていく

【相違点】

- ・大きな相違点は今回見受けられなかった

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・利用している児童が楽しみに参加できるような活動プログラムの内容
- ・子ども一人ひとりに対しての丁寧な対応を心掛けているところ
- ・保護者との信頼関係

事業所の改善点

- ・非常災害時における避難方法や対応の周知の徹底
- ・マニュアル類の定期的な周知と、それに沿った対応の共有
- ・職員の育成、専門性の獲得

事業所の改善への取り組み

- ・マニュアル等を用いてわかりやすく職員に周知をし、対応を統一化していくとともに人材育成も意識的に行っていき、職員一人ひとりの専門性を深めていく
- ・避難訓練については様々な状況を想定し、どんな職員でも対応できるようにしていく。また、実行した際は保護者への周知も忘れないよう発信していく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者が普段見えない事業所の様子を、いかにしてこちらが伝えていくかというところの重要性と、職員一人ひとりが自信を持って対応に当たれるよう、専門性を深めていくことがより良い療育の提供につながると感じました。

事業所名 スイミーフレンズ本牧

担当者 経塚 治